



国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後 12:30～1:30

例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

超私の奉仕

第2313回 例会会報 平成18年5月2日(火) 晴(本年度 第37回)

会長報告

加藤 功

自由と人権の尊さを実感する社会問題が多く起こっています。特に、4月29日、拉致被害者横田めぐみさんの母早紀江さんと弟の拓也さんが、ホワイトハウスでブッシュ米大統領と面会しました。ブッシュ大統領は「国家として拉致をしているのは信じ難い」と応じたと報道しています。

それに関連して、森鷗外著『山椒大夫』を取り上げて考えてみます。

「(時は平安末期)14歳の安寿と12歳の厨子王は、母と女中で父のもとへ行くべく旅をしていたが、途中、悪い人間に騙され親子は離れ離れになり、安寿と厨子王は山椒太夫という金持ちに売られて奴隷として働くことになる。安寿と厨子王は泣き合う日々を送ったが、2人揃って守り本尊に助けられる夢をみてから安寿の様子が変わる。やがて安寿は厨子王を逃がすことに成功、しかし自身は入水した(説教節と異なる)。うまく逃げ果たせた厨子王は、守り本尊の導きにより自分が筑紫へ左遷させられた平正氏の嫡子だということを知る。正氏はすでに死んでおり、嘆き悲しんだ厨子王だがやがて丹後の国守となり、丹後での人の売り買いを禁止し母を探す。そしてとうとうある日、厨子王は母との再会を果たし、涙を流しながら抱き合う」。

次に、「今回読んで連想したのは、日本人拉致被害者のことです。訳も分からず幼くして人売りにさらわれ、親と離れ離れにさせられた横田めぐみさんや曾我ひとみさんがどうしても重なってしまいます。本作品では最後、厨子王と母親が涙の再会を果たすのですが、拉致被害者の方々にも一日も早くこのような再会を果たしてほしいと思います。ところで、山椒太夫の一族はどうなったのでしょうか。国守になった厨子王によって人身売買が禁じられたことによって、山椒太夫の一族は一時的には大きな損

害を出します。しかし、《この時から農業も商工業も前にも増して盛んになって、一族はいよいよ富み栄えた》と鷗外は記しています。北朝鮮も早く拉致被害者を解放すれば経済援助も受けられるだろうと思っています」。

ロータリー綱領 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。これが世界社会奉仕を導く羅針盤となっている。しかし北朝鮮にはRCは存在しません。ロータリーには自由と人権について記述が見当たらない。ロータリー財団のプロジェクトの1つ、人道的プログラムには3H(保健、飢餓追放と人間性尊重-人間的、社会的向上を図ることの意味)プログラムがあるが、拉致問題を取り上げるまでに至っていない。今後の検討課題と思います。

さて、5月7日から11日まで姉妹友好クラブ・台中港区扶輪社の創立35周年式典に、鶴岡RCから13名が参加します。その際、鶴岡RCではご祝儀と登録料を持参していきます。また、会長挨拶文は次のとおり書きました。

台中港区扶輪社 35 周年記念式典にあたって

本日、台中港区扶輪社の創立35周年記念式典に際し、鶴岡RCは「誠におめでとうございます」と心からお祝いを申し上げます。

両RCは、1974年から現在まで32年間にわたって姉妹友好の盟約を続けてきました。これは、偏に共に固い絆で結ばれてきた証であると思います。

鶴岡RCには、35年前の当初からの会員も少なくなり、ほとんどの会員はその後に入会した者によって占められています。古参であろうと新参であろうとも、RCでの出会いの機会を大切に、これまで先輩の方々が築いて来た国際的な相互の友情と連帯の絆をより一層強めていきたいと思います。

私は、山形大学に在職中、戦前、外地と言っていた台湾において勉強し、また教育していた教員に会う機会がありました。いずれの方々も、素晴らしい



みんなで止めよう温暖化

アイドリングストップ!!

教育・研究者として学生を育て、自らの研究の成果を残しています。この度、私が台中港区扶輪社の皆様方と出会う機会を得たことにより、限られた滞在期間ではありますが、友情を深めながら少しでも事柄を学び、理解していきたいと思ひます。

両RCは、双方の交流を通して相互の歴史、伝統と文化を理解し、さらに地球環境を保全し、人類の繁栄と世界の平和のために、奉仕の理想を掲げて奉仕活動を展開していく決意を誓いたいと思ひます。

なお、鶴岡RCは、3年後に創立50周年記念式典を行います。その際に、貴RCを招持申し上げますので、多数ご参加下さることを切に望みます。お待ちしております。

最後に、貴RCがますます発展されることをご祈念いたします。本日は、誠にありがとうございます。

会員スピーチ

嶺岸 禮三

私がクラブに入会したのは平成元年です。20年近くロータリーに席を置いておりますといろんな人と出会うチャンスがあり、これもRCの大きな魅力のひとつです。入会したその日に「二桁会」とファイヤーサイドミーティングという会合に、わけもわからず出席しました。ファイヤーサイドミーティングでは、隣に新穂光一郎さんがおられ、新穂さんの話し方、お酒の飲み方、態度、話をしている内容を聞いて何とキザな人なんだろうと思ひました。ほとんどが自慢話にしか聞こえませんでした。例会の途中でかなり厳しい野次をとばすこともしばしばで、なんと横柄なわがままな人なんだろうと感じました。実は新穂さんは義母の同級生で大変頭のいい生徒だったと言うことを聞いたことがありました。そんな新穂さんから事務所に呼ばれたことがありました。新穂さん専用の部屋があり、そこであった新穂さんの印象が例会のときは別人であったのを覚えています。机はロータリー関係の本や書類が山積みで、その中から青少年関係のものを引っ張り出していろいろ説明を始めた新穂さんはフレンドリーで本当に楽しそうで、新穂さんもロータリーの情熱派だったんだと思ひました。新穂さんはその頃地区の青少年交換委員長だったと思ひます。当時は253地区の頃で、福島、山形で一つの地区でしたから青少年交換も受け入れ、派遣で20人以上いたはずで、電子メールもない時代で大変時間をかけてやっていたんだろうと想像できます。

「二桁会」は、昭和二桁生まれの会員の会ということで、なんだかよく分からず出席しました。その

時は「施設にいる女の子の支援について」熱心に議論をしていて、ロータリーは個人的な援助もする団体なのかと思ひたのを覚えています。その時よく発言していたのが藤川さんと、佐藤元信さんと関原亨司さんでした。特に関原さんは、大きい声と感情が前面に出て一番目立ってました。関原さんは次年度地区のガバナーになります。その関原さんから次年度地区のGSEをして欲しいと言われ、引受けはしましたが、これが大変なことだとなかってきました。それは現委員長が森さんという村山ローズクラブの方で、非常に仕事ができ、委員の信頼も厚い委員長の後だからです。森さんから引継ぎの資料を頂きましたが、その資料の整理は見事で、読んでいけばGSE委員会で何をやってきたか良く分かるようになっていました。委員の半分以上が昨年の経験者で委員長だけが新米という状況で、少し戸惑っております。GSEは御存知のようにロータリー財団の教育プログラムの一つで、25歳から40歳までの若い職業人4～6名とロータリアン1名からなるGSEチームをつくりお互いに訪問しあい、文化的研修と職業的研修を行うものです。昨年がブラジル、その前は台湾から受入れました。会員の方にもホームステイでお世話になりました。次年度はインドと交換になるわけですが、交換相手は3080地区で、農業と近代工業が盛んな、丁度山形と似ているのではないかと想像します。しかし、貧富の差が大きいことやカースト制度が変化してもまだ残っているなど、理解するのに大変な勉強をしないとイケないような気がします。そのインドとの交換について、チームリーダーとチームメンバーの推薦を、是非皆さんにお願いしたいと思ひます。

委員会報告

●出席委員会

委員長 阿蘇 司朗

本日の出席		前々回の出席	
会員数	46人	出席率	54.52%
出席数	28人	修正出席数	32人
出席率	63.64%	確定出席率	72.73%

●メイクアップされた方

阿部純次君 藤川享胤君 後藤順一君
本間昭吉君 佐々木喆彦君 佐藤友行君
富樫松夫君 若生恒吉君

スマイル

丸山隆志君 嶺岸さんスピーチ有難う。新穂さんのことを大変懐かしく思ひ出しました。

富樫松夫君 嶺岸さんスピーチ有難う。